6つの線でカタカナ・漢字を支援する試み -地域実践におけるアルファベット法とTPR法の比較から-

髙橋志野 (愛媛大学) 向井留実子(愛媛大学) 伊藤江美 (拓殖大学)

takahashi.shino.mm@ehime-u.ac.jp

本出展の目的

「K-code」を用いた指導方法とその実践を 紹介し、文字学習についての問題意識を 持っている方と指導・支援方法について意見 交換をする

K-codeを地域実践に

これまでに国内の留学生の初級漢字指導で用いら れ、線の識別と共通言語機能において有効性が示 されている(中村・伊藤2022)

一方で、地域の生活者の書字習得の必要性も指摘 されている(向井・新矢・高橋2016)

地域の生活者に使えないか?

実践者からの意見聴取

アルファベットを用いない国からの人が多い ため使いにくい

線をアルファベットと結びつけなくても、字体 は教えられるのでは

教師がコードを覚える手間がかかる

すでに文字学習した外国人からの意見

なぜ日本語なのに、アルファベットを使うのか

K-codeとは

エジプト人研究者タハ・シヌーシが開発(Taha2020) 漢字の点画の形状を類型化して、最小限の6種類にし アルファベットでコード化することによって、漢字を学び やすくした指導法

6つの線に形状の似たアルファベットをあてはめ、3つの 追加オプションによって、様々な線の形状や書き方を説明

学習者にとって

地域の日本語指導現場の特徴

指導をボランティアが行う場合が多い

文字学習をしていない学習者が多い

教具が揃わない環境の場合もある

外国ルーツの子どもも参加する場合もある

線のタイプを、すでに知っているアルファベトでコード 化するので、抵抗感が軽減できる

複雑な形状でも、6種類の線に還元できるので、容易 に形状を捉えることができるようになる

読みやすい字が書けるようになる

コード Н (小文字で) 長短 hlznvl はねW 一画該当箇所に下線を引く 日 → IHIHH $V \rightarrow IV$

教師にとって

Iつのコードで、線の始点や方向、終点の形状(とめ、 はらい)を説明することができる

書き方を説明するとき共有言語ができるので、日本語 を介さずに説明ができる

学習者同士でも教え合えるようになる

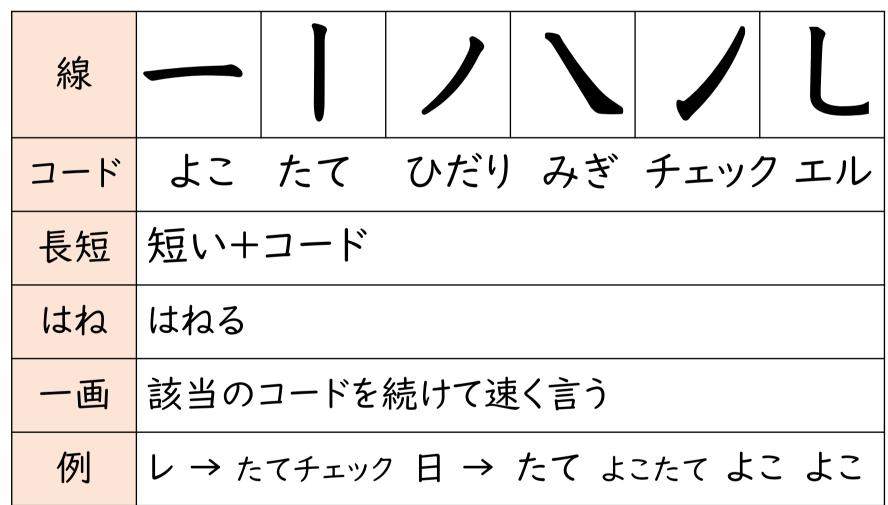
地域に即した方法にするための条件

- アルファベットを使わない
- 2 その回限りで完結する
- 3 文字が読めない人に使える
- 4 その後の学習にもつながる
- 5 外国ルーツの子どもにも使える
- 6 できるだけ教具(PCなど)を使わない
- 切 指導に慣れていないボランティアでも使える。

アルファベット法からTPR法の開発へ

現在、実践しながら開発中(実践①②→ 実践③④⑤)

目標:60分~90分でカタカナの書き方がわかり、 名前(+住所の一部)が書けるようになる



特徴

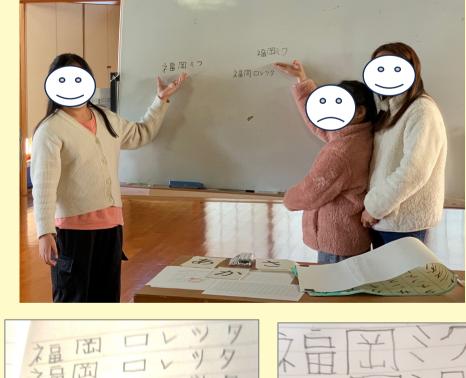
- Ⅰ)日常(学校で)使っている言葉をコードに □47 指導に慣れない人でも日本人なら馴染みやすい 日本語なので、学習後も使える言葉になる
- 2) TPRでコードを覚える **57**
 - コードの繰り返し練習が運動の感覚で楽しくできる コードの音が動作としっかり結びつき、覚えやすくなる
 - 動作は、書く時の体感と結びつけやすい
- 3) 学ぶことを最小限に抑える 2
- ①カタカナの読みは示さず、字体を覚えることから始める 3 読めなくても字体の構造に集中できる
- ②カタカナすべてを書くのではなく名前を練習する 自分の名前が書けることで文字学習の動機づけに
- ③ 名前のカタカナの読み方を覚える 4 自分の名前なので、覚えやすく、読み学習の動機づけに
- 4) 特別な教具を使わず、配布物も最小限に 67
 - 最小限の紙資料で複雑にしない

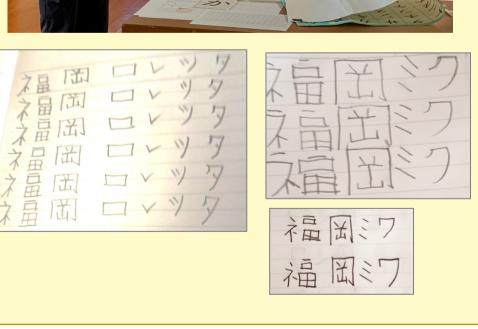
実践①

学習者も指導者も継続的な参加ができない場合が多い

対象:小学生(2年生と5年 生)とその保護者

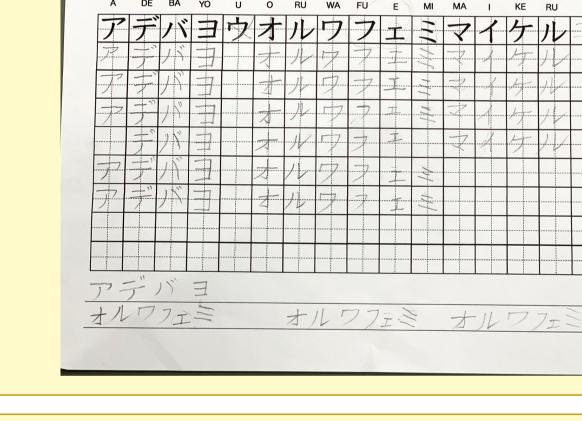






実践② 対象:高校生 |人





実践③ ④ ⑤

対象:大学の留学生 (日本語学習経験がなく、学 習する時間も確保しにくい、地 域の外国人に近い学生) ③2人 ④1人 ⑤8人



フォティサン ジャクリットフォナイサン ジャクソットーフォティサン ジャクリット フォティサン ジャクリットフォティサン Jahurit Photisseng

名前のカタカナ練習専用のシート を使用

名前を入力したら自動的にマス目に 文字が入り、文字の上に読み方のロー マ字が表示される

地域の日本語支援者6人 へのアンケート結果

(2つの方法を紹介後に実施)

- ▶K-codeは、カタカナ・漢字学習を容易に する(6人)
- ▶アルファベット法よりTPR法が実践しやす いと思う(6人)
- ▶K-codeはどんな人に一番向いているか 外国ルーツの子ども(3人) 初級学習者(2人)

大人(1人) 文字を見たまま覚えるのに抵抗がある 人(1人)

TPR法の課題と可能性

今後も、より地域に即した方法に改善していく予定

しかし

- ・実践の機会が少なく、さまざまな対象を得にくい
- ・実践後どの程度、K-codeを使用した効果がある か未調査のため、不明
- ・地域の支援者への説明は、口頭や文章では伝わり にくいため、実践の見学が最も望ましいが、その機 会を作るのが難しい

意見交換

みなさんの現場で この方法が使えそうですか? どんな点を改善したら、 使えると思いますか?

- 参考文献 I) Taha, Sinousy Emman(2020)「非漢字系日本語学習者のための字形学習法-漢字導入に焦点を当てた。 過学取能的八年とのスクチョウ 100 第一次 100 第二次 100 第三次 10 視覚形態的分析と組み合わせコード化-」JSL漢字学習研究会誌 | 2, pp.77-85
 - 2) 中村かおり・伊藤江美(2022)「線の識別力を高める漢字字体学習法「Kコード」の効果と課題-学習者およ び教師への意識調査から-」拓殖大学日本語教育研究7, pp.55-76
 - 3) 向井留実子・新矢麻紀子・髙橋志野(2016)「国際結婚移住女性の書字学習支援に関する一考察-ソーシャ ル・サポートという視点からー」JOURNAL CAJLE, VOL. 17, pp.44-62

6つの線でカタカナ・漢字をマスターしよう: https://www.youtube.com/watch?v=VfSgi463hDY

K-codeのHP: https://k-code.net